

科学研究費補助金（基盤研究（S））研究進捗評価

課題番号	18100001	研究期間	平成18年度～平成22年度
研究課題名	ネットワーク浸透のための融合技術と進化のための情報ダイナミクスに関する研究	研究代表者 (所属・職)	尾家 祐二 (九州工業大学・大学院 情報工学研究院・教授)

【平成21年度 研究進捗評価結果】

評価	評価基準	
	A+	当初目標を超える研究の進展があり、期待以上の成果が見込まれる
○	A	当初目標に向けて順調に研究が進展しており、期待どおりの成果が見込まれる
	B	当初目標に対して研究が遅れており、今後一層の努力が必要である
	C	当初目標より研究が遅れ、研究成果が見込まれないため、研究経費の減額又は研究の中止が適当である

(意見等)

本研究は、(1) ネットワーク融合技術、(2) 情報ダイナミクスの分析と統合、(3) 新たな情報伝達機構、の3つの分野で構成され、(1)と(2)に関してはおおよそ計画通りに研究が進展している。(1)では、提案方式の実機検証がなされ、(2)では、提唱モデルの多面的な検証がなされ、モデルの妥当性が示されている。(3)は、挑戦的なテーマであり、それゆえ計画にそって研究が進展しているとは言い難く、今後の努力が必要である。また、これら三つの分野の研究が個々に着実な成果を上げるだけでなく、強く連携し融合的な成果を生み出すことが期待される。一方、研究開始早々の成果の発表は妥当性を欠く。それよりも、もっとワークショップの議事録などの入手を容易にするとともに、国際的な情報発信が急務と考える。さらには、研究自体が従来のネットワークの分野に限定されないので、新しい分野開拓の可能性があり、それを試すためにも他の分野での評価を積極的に受ける体制が期待される。

【平成23年度 検証結果】

検証結果	<p>ネットワーク融合技術では、(1)-①ハンドオーバー時の通信品質の向上、移動ロボットへの適用、(1)-②コグニティブ無線技術における協調制御チャンネルのアルゴリズムの決定方式の提案を成果として挙げているが、これは互いに連携を欠き、融合的な成果が得られていない。(1)-③ネットワークとユーザの垂直統合、(2)情報ダイナミクスの分析と統合はユニークな方法を試みているが、まだ研究途上もあり今後の研究の余地が大きい。(3)は興味深いテーマだが、P2P 環境のデータ配置効率向上や感性タグの応用など、個々の研究が(1)と同様に連携を欠いている。全体を通じてまとまりがなく、新世代ネットワークへの進化と、情報ダイナミクスを高める新たな情報伝達機構の開発という点について期待される成果には及ばず、今後の研究の進展を期待する。</p>
B	